

平成 29 年度小牧市総合教育会議 議事録

| | |
|------|--|
| 日 時 | 平成 30 年 1 月 23 日 (火) 16 時 00 分～17 時 30 分 |
| 場 所 | 小牧市役所本庁舎 6 階 601 会議室 |
| 出席者 | <p>【委員】</p> <p>山下 史守朗 小牧市長 安藤 和憲 小牧市教育委員会 教育長 山田 周司 小牧市教育委員会 委員 (教育長職務代理者) 斎藤 由美 小牧市教育委員会 委員 伊藤 敬一 小牧市教育委員会 委員 伊藤 和子 小牧市教育委員会 委員</p> <p>【説明員】</p> <p>伊木 利彦 市長公室長 鵜飼 達市 市長公室次長 大野 成尚 教育部長 鍛冶屋 勉 教育部次長 (学校教育担当) 高木 大作 教育部次長 (社会教育担当) 小川 正夫 教育委員会事務局 教育総務課長 野田 弘 教育委員会事務局 教育総務課長補佐 中谷 直 教育委員会事務局 学校教育課長 野田 幹広 教育委員会事務局 学校教育課主幹 堀田 正二 教育委員会事務局 学校教育課長補佐</p> <p>【事務局】</p> <p>安藤 誠 市長公室 秘書政策課 市政戦略係長 立山 由希子 市長公室 秘書政策課 市政戦略係</p> |
| 傍聴者 | 3 名 |
| 配付資料 | <p>資料 1 平成 29 年度小牧市教育委員会基本方針 資料 2 小牧市モデルのコミュニティ・スクール制度方針 資料 3 「教育の情報化」の共有について 資料 4 先進都市の事例紹介 参考資料 構成員名簿</p> |

内容

| |
|---|
| <p>1. 市長あいさつ 山下市長よりあいさつ</p> <p>2. 教育長あいさつ 安藤教育長よりあいさつ</p> <p>3. 議題 (1) 教育の現状について 資料 1 に基づき鍛冶屋教育部次長より説明。</p> <p>山下市長) 教育の現状について、教育委員会においても議論されていることとは思いますが、総合教育会</p> |
|---|

議という教育委員会の皆様との懇談会の場ですので、市への忌憚のないご意見をいただければと思います。

安藤教育長)

事務局の説明に補足させていただきます。資料1の1ページに「学び合う学び」を支える教員研修の実施とあります。特にこの「学び合う学び」につきまして、小牧の現状を説明します。

2020年に小学校の学習指導要領が改訂され、その翌年には中学校のものが改訂されます。その柱となるのが、主体的、対話的で深い学び、いわゆるアクティブラーニングという言葉が初めて今回出てきます。子ども達が課題に対して個々の考えを伝え、より深く自分の考えを学んでいくという形を十数年前からとってきていますが、教育委員の皆様には学校訪問でそういう形の授業をその都度見ていただいているので、雰囲気はわかっていると思います。これを基盤に、小牧の子どもたちの学力をつけていくというのが小牧の基本方針の柱に据えている内容ということになります。

山下市長)

資料1の3ページ、施策13の子ども夢チャレンジ事業ですが、この中で平成29年度からスタートした事業として、①の駒来塾やここには記載がありませんが高校程度の学力試験を受ける際の助成制度や大学進学時の助成制度など子どもの貧困対策を強化していこうということで取り組んでいます。駒来塾については北里、篠岡でまず実施をしております。人手不足など課題もありますが、各地区に順次拡大していきたいと思っております。

施策13の子ども未来創造センターの設置では、子ども部分については(仮称)子ども未来館で考えておまして、この夏に子育て世代包括支援センターを先行して整備します。子どもが学び、遊び、体験するための部分につきましては現在構想策定中であります。教員の研修などの機能はこれから教育委員会を中心に議論をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

図書館につきましては、基本設計を進めている段階です。先ほど事務局から説明がありました。ワークショップには、中学生、高校生、大学生も参加をいただいて熱心に取組んでいただきました。子ども達の期待も大きいと感じておりますのでしっかりと進めていきたいと思っております。2021年の春の3月31日までは供用を開始する予定で進めております。

現図書館の利活用につきましてもそろそろ議論を深めていかななくてはならないと思っております。これまで、新図書館の方針を昨年度6月まで議論してまいりましたが、跡地についてはまだ議論してきませんでした。現在、いろいろと研究をしているところで、さらに進めて方向性を形にしていかなければと思っておりますので教育委員会の皆様にもよろしくお願ひ申し上げます。

史跡センターは2月に国の予算決定がいただける見込みです。それを受けて着手し、来年の5月頃までに供用開始予定と聞いております。

山田委員)

プログラミング講座など教育科目も次から次へ変化する現状の中で、どう現場を運営していくかが重要です。先生方自身の勉強の場もいるし、その時間を取れるようにしてあげなければいけない。研修や研究ができるような場をぜひ用意してあげて欲しいと思っております。

山下市長)

教育委員会でそのような議論がなされていくとは思いますが、予算等で私も努力していきたいと思っております。

伊藤敬一委員)

子ども夢チャレンジ事業でプログラミング講座などの講座があるのですが、現実では世の中の変化するスピードが速く、どんな人が求められているのかが分からない状況です。子ども達が将

来の職業観だとかを考える時により具現化できる材料となるものを多く与える必要があります。スピードについていくのは大変で、既存の産業が変わっていく中で、子ども達がそれを想像できるための材料を学べるような場を学習とあわせて提供していかないと、自分の将来が描きにくい世の中になってきていると思います。

今は全く無いような職業が当然でてくると思うので、チャレンジ事業の中で少しでもそういうものを想像できるような学習が出来るようになるといい。非常に難しいとは思いますが、自分が目指していた職業が、ロボットがやっているからなかったという世の中に当然なると思います。

山下市長)

仰りたいことはよく分かりますが、教師や他の大人でも10年後にどうなっているか分からない世の中だと思います。見通すことも大事ですが、見通せないこともある中で、変化に対応する力を育むことも大事だと思います。

私の考えですが、理数的な思考や国際教育も基本的な学力の中に入ってくるのかと思います。どういう教育を、ということに関しては文科省で決めることですが、小牧として率先していち早く取組めるのであれば、何が出来るかということを経験者の皆様方と議論しながら取り組んでいきたいと思っています。

斎藤委員)

小牧では、「学び合う学び」として取組みを進めており、非常に成功していると思います。教育長のお話にもありましたが、学校訪問では先生方が熱心に取組んでいて、授業にもそれが活かされているのを見せていただきました。

ただ、それをさらに一步前に進めるには、子ども達が自ら考えて行動するという力をもっと発展させなければいけない、そのためには教員があるべき姿をもっと進んで研究していかなければならないと思います。そうするとやはり場所と時間をしっかり用意してあげたい。コミュニティ・スクールの導入についても、教員だけではなく地域の人たち、参加される方皆が自分で進んで研修していける場所を作るということは非常に大切です。基本は子ども達ですが、まずは指導者が変わらなければいけない。教員は本当に大変で、訪問した学校全てで非常に熱心に取組んでおり、一体どうやって時間を作っているのかと思います。

小牧が率先して推進していくならばまず、時間、場所を確保できるように、いつでもそこに行くとして自分で補いたいものが補えるような、人を育てるための機会を与えることが一番大事だと思います。

山下市長)

教えることは増える一方で、教員の皆様は本当に大変だと思っております。プログラミングでも英語でもどんどん専門的になっていくので、文科省が考えることだと思いますが、どうしていかか考えなくてはならない気もします。

あくまで私見ですが、ICTが進めば増え続ける教師の負担を上手に減らす策を考える時が来ると思います。愛知県だけでも5万人の教員がいますが、30人学級でも40人学級でも先生が教える負担というのは同じことです。もちろん生徒一人ひとりと向き合うことは大事ですが、勉強を教えるということだけに限れば、ネットワーク化が進めば、教えることが上手な先生一人いればカバーできるかもしれない。そこにチームを作って授業を組み立てていけば、人材不足がある中で、なかなか時間がかけられない部分、例えば勉強についていけない子や家庭環境に問題をかかえている子のフォローがもっと出来るようになるかもしれない。塾なんかではサテライトを導入しているわけですし、これから、もう少し学校環境も効率化していく可能性もあるのではないかと思います。

齋藤委員)

非常に面白い考えです。先生によって同じことを教えても、上手に教える先生とあまり上手くない先生がいれば、これは子どもにとって非常に不公平だと思います。そう思うと、上手な先生一人の授業を皆が受けられるというのは不公平感もなくなりいいのではないかと思います。

安藤教育長)

少し極論という気がします。私は学ぶ教師こそが子ども達を育てると思っています。現在小牧の教員は、20代、30代が半数を占めており、50代は34%となっています。しかし、10年後にはこの数はいなくなり、これから教員はどんどん若返ってくるだろうと想定されます。そうすると、若い教員ほど吸収力が速いので、そこを育てないといいい教育が出来ないのではと思います。これから10年の間に教員を育てるというシフトを組んだほうが教育は充実するのではないかという意味で、今がいいタイミングではないかと思っています。

山下市長)

仰るとおりだと思います。研修センターを含め研修体制はしっかり整備していきたいと思えます。その上で、ICTを上手に組み合わせて使用していけば人材やコストの面でも効率よく運用できるのではと思います。

伊藤和子委員)

子を持つ母親としてお話しますが、こどもの心を育てるということも大事にしたいです。心が育っていないことで問題が起き、学力に響いてくることもありあす。それを考えると、先生も100%ではないから学ぶ、それを見て子ども達も学ぶことの大切さを学んでいくのではないかと思います。場所や時間を提供するだけ、形だけにならようにして欲しいと思います。

山下市長)

ありがとうございます。それでは次の議題に移ります。

(2) 主要な取組について

①コミュニティ・スクールについて

資料2に基づき鍛冶屋教育部次長より説明。

山下市長)

資料2の5ページを見ていただきますと、自治基本条例や都市宣言、子ども子育て条例を方針として掲げていただいている中で地域に開かれた学校を目指しているところとす。6ページには地域協議会との連携ということで、特に小学校において連携して取組んでいただけるといこととで考えております。方針についてもそのような整理をしているところでありまして、協働推進課で進めております地域協議会につきましても、方針・方向性と連携して進めていけたらと思っております。

齋藤委員)

コミュニティ・スクールについてはいい目標が出来ているのですが、現実には実際にどう運営していくかが重要なポイントなわけで、子ども子育て条例の中にあるように、学校等の責務、地域住民の責務、保護者の責務、これらが全て協働できて実際にやっていけるのではと思います。昔の世代ですと、地域で子どもを育てるという意識もありましたし、自分の子どもだけではなくて、友達の子ども、こどもの友達なども一緒に成長させようとする意識が親にあったと思います。しかし現状の家族は自分の子どもだけ、地域も他人の子には注意できないという現状で、大事なものは保護者の教育といひますか、保護者も学んでいく必要があり、皆がそういう気持ちになるよ

うに、何がいかはまだ分かりませんが、何かやればいいなと思います。

山下市長)

仰るとおりだと思いますが、私個人の考えでは、教育委員会が各自治体個別におかれていることは、学校と保護者の間に立って、それぞれの市町で教育に反映させていくのが役割のかなと考えています。そういう意味では地域を代表して、地域の皆様の協力を得ながら充実させていくのが教育委員会の指導力によると思っております。

また我々も、行政としてご理解とご支援をいただくべく取り組んでおります。

安藤教育長)

まさしく、学校の理解者、支援者という関係を地域の人たちと作っていければ、学校自体はやりやすいし、地域の人たちのお力がありがたいという感謝の言葉がさらに地域の人たちのやりがいにつながっていくと思います。中学校では、出かけて行って応援しましょうと、お年寄りの力になりましようとなれば、地域の人たちから「頼りになるね」とやりがいにつながっていき、これはお金に換えがたいものではないでしょうか。一個一個小さなことから始めてもらえばいいです。すごい事をしなければならぬという足枷にはしたくないですし、それによってモンスターペアレントもなくなっていくのではないかと思います。

山下市長)

学校と保護者の方の橋渡しをするというのは教育委員会の役割の一つだと思います。さらに地域の方々に入っただいて、ある意味地域の良識を学校の運営に生かすということなんですけれども、今は家庭の教育力、地域の教育力、学校の教育力とを並べたときに家庭も低下をし、地域も低下をしているという中で、学校ばかりしわ寄せが来て、先生方の労力が大変な状況になっていると思います。今の時代背景をふまえれば、地域の方々も入っただき、助けてもらうという意味で応援団という一面も持っていければと思います。

伊藤敬一委員)

学校評議員会がなくなって、学校運営協議会にという感じに捉える方もいるかと思うのですが、そうすると学校評議員会がちゃんと機能していたのかという疑問があります。自分も評議員をやらしていただいた時に何を言っていたか分からない、在り方の説明があまりなされていなかったと思います。また、PTAの活動を無くしている自治体も出てきているとテレビで以前見ましたが、PTAも役員が回ってきたからやるという方もみえる反面、一生懸命やっている楽しいと言ってみえる方もかなりいらっしゃるの、何のために、というところ、先ほどの話にもありましたやりがい感というのを出す必要があると思います。参加する人がおもしろいと思ってくれれば盛り上がってくると思うので、やってみないと分からない部分もあるかと思うのですが、やる以上は良くするために、参加した人が良かったと思えることは大事だと思います。

安藤教育長)

立ち上げが一番大事だと思っております。熟議を繰り返し、何が出来るのかということから、何を求めている会なんだということをはっきりさせる。そのためには役員になった方の研修会とか、学校側の準備とか、そういう場を設けないといいものが出来ていかないのかなと思います。形だけに入ってしまうと、どうしても惰性で流れてしまうので、そういう組織体にはしたくないという意識は事務局も持っています。

山下市長)

ありがとうございます。我々も支援をしっかりとしていきたいと思っております。

それでは次の議題に移ります。

(2) 主要な取組について

②教育のICT推進について

小牧市の現状について、資料3に基づき鍛冶屋教育部次長より説明。

先進都市の事例について、資料4に基づき鶴飼市長公室次長より説明。

山下市長)

現在、全国ICT教育首長協議会という有志の市町村で組織した勉強会をやっております。協議会の冊子でも小牧市を含め100市くらいの状況について掲載があるのですが、多くの自治体が一人一台タブレットということを将来見据えて研究をしている状況で、一部の自治体では実現しているところもあります。非常にお金がかかることですので、デジタル教科書等を採用するにあたっては、国が義務教育費の国庫負担をしっかりとしてもらわなければいけないという意見も小牧市から文科省の方へ出している状況でもあります。

予算の議論はともかくとして、つくば市など非常に先進的な事例をみると、家庭学習と授業の連動が基礎学力の定着、向上に非常に効果があるのではと感じています。デジタルですと、どこでつまづいたのか、誰がどういう状況なのかというのが先生や保護者がすぐ把握でき、次の学習に生かすことができます。

小牧としてのICTを活用した、効果的な学習ができるのかという可能性を考えていきたいとの思いで、首長会議に教育委員会事務局の職員にも参加してもらっています。導入するにしても方向性を十分に検討して、指導体制も含めて、どう活用していくかを検討していかなくてはならないと思います。教育委員会の中でも、現場の先生方を含めて、よく研究していただき、一定の方向性を共に出していければいいなと思い、現状と課題の共有のため、議題とさせていただきます。現時点で何かご意見あればお願いします。

伊藤敬一委員)

まず、全員ではなく興味がある子からやらせてみる、というのも面白いかと思います。プログラミングもそうだし、機械があることによってどういう勉強の仕方をするのか、どういう発想が出るのかをみるのも面白そうだなと思います。

山下市長)

ありがとうございます。まだ構想中ではありますが、(仮称)こども未来館で、より学びたい子に対して、プログラミング講座を中心にさらに一步先のICT教育をという案も出ておりますので検討していきたいと思います。

山田委員)

避けては通れないと思いますが、どういう目的でどの範囲まで使っていくかしっかりと抑えなれないといけないと思うし、使う現場の先生方も理解、熟知していただく必要もあるかと思います。

山下市長)

学校の機器更新の時期でもあり、予算要求もありますが、それとは別に次のステップとして検討していきたいと思いますのでよろしくお願いします。以上で議題は全て終了いたします。

4. その他

本日の会議内容について、委員確認後、市のホームページで公開することを報告。